米之宮浅間神社 社報

令和5年
正月号
1月1日発行

新しい年を迎えて

令和五年（紀元二六八三年）の癸卯（みずのとう）の年頭に当たり、謹んで皇室の弥栄（いやさか）と氏子崇敬者の皆様の御平安をお祈りいたします。

新しい一年がはじまり、気持ちも新たに過ごされていることかと存じます。時節柄、不安になるような情報を耳にすることも多い世の中ですが、ぜひ神社へお参りに行き、神さまの御神徳をいただいて、幸多き一年をお過ごしになりますようご祈念申し上げます。

正月「奉納行事」のご案内

当神社境内にて以下の通り開催いたします

1月2日(月)
九時三十分～　尺八、詩吟朗詠（竹友会・岳心流吟友会）
十時～　古武道演武（総合福祉武道学会・少林会・神刀正武塾）
十一時～　木遣り、梯子乗り（氣組・富士木遣り愛好会・青柳会・富士地区鳶工業連合会）

1月3日(火)
十時～　巻藁射礼（富士市弓道協会会員）
十時十五分～　武道演武（神明館）
十一時十五分～　甲子囃子（富士本町甲子囃子保存会）
正午～　馬弓神事（紅葉台木曽馬牧場）

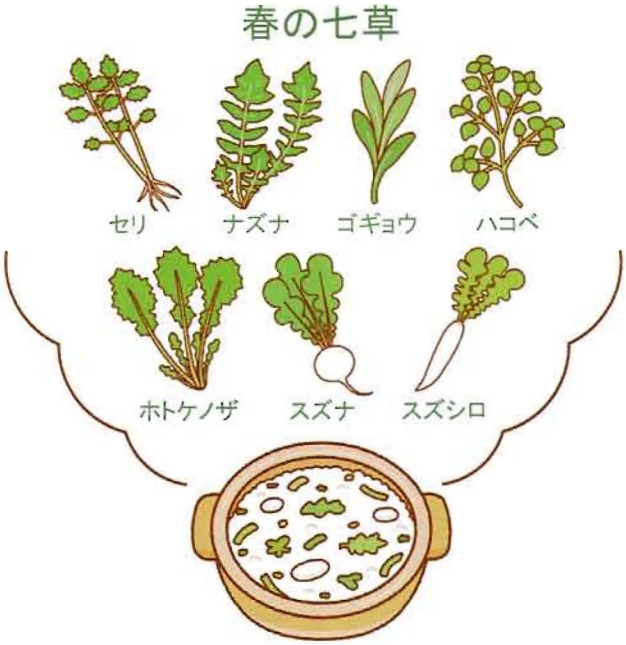
◇　◇　◇　◇

節分祭「豆まき式」2月3日(金)
一回目　特別祈祷　十二時　豆まき式は約30分後
二回目　特別祈祷　十四時　（〃）
三回目　特別祈祷　十六時　（〃）

※ 厄除・招福祈願神事の受付中、詳細は社務所まで

人日の節供

日本には一年を通して多くの節供（せつく）がありますが、年が明けて最初の節供は、人日（じんじつ）の節供（一月七日）といい、七種の節供、ナナクサとも呼びます。七種類の野菜を粥にした七草粥を食べて、一年間の無病息災を願う日本の伝統的な風習です。この風習は、中国から伝わりましたが、日本にも、正月初めての子（ね）の日に若菜を摘む野遊びの風習がありました。それらが交わり、平安時代には七草粥を食べていたとされます。代表的な春の七草は、セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベ・ホトケノザ・スズナ・スズシロですが、地方によって組み合わせはさまざまです。



厄年について

厄年は、人の一生の中でも様々な災難にあいやすい年と言われています。現在は負の側面が強いですが、本来厄年は、晴の年齢と考えられてきました。厄年になるということは、地域社会において一定の地位を得ることを示し、宮座への加入や神輿担ぎを行うなど、神事に多く関わるようになります。このため、心身を正常に保ち、言動を慎む行動をする必要があったわけです。数え年では、新年を迎える正月に年を取るので正月に厄払いを受けることが多いです。厄年の年齢になりましたら、厄払いや厄除けのご祈願を受けましょう。

令和五年 厄年表

男性		
前厄	本厄	後厄
24歳（平成12年生）	25歳（平成11年生）	26歳（平成10年生）
41歳（昭和58年生）	42歳（昭和57年生）	43歳（昭和56年生）
60歳（昭和39年生）	61歳（昭和38年生）	62歳（昭和37年生）

女性		
前厄	本厄	後厄
18歳（平成18年生）	19歳（平成17年生）	20歳（平成16年生）
32歳（平成4年生）	33歳（平成3年生）	34歳（平成2年生）
36歳（昭和63年生）	37歳（昭和62年生）	38歳（昭和61年生）
60歳（昭和39年生）	61歳（昭和38年生）	62歳（昭和37年生）

※数え年は、誕生日前の場合は2歳、誕生日を迎えている場合は、1歳を足して計算します。

神社からのお願い

神社では感染予防に対し様々な取り組みを行なっています。是非清々しい気持ちで神社にお参りして戴く為に、皆様におかれましても感染症対策に十分に気を付けて戴くようお願い申し上げます。

神社や神道について詳しくはこちらのQRからご覧ください。

神社では、家内安全・身体健全・商売繁盛・初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願・交通安全・旅行安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願・厄祓い・病気平癒・心願成就・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々なご祈願を受付けています。いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。
ご祈願についてのお問合せは神社まで

連絡先　米之宮浅間神社　社務所
〒四一六-〇九〇六　静岡県富士市本市場五八二
☎〇五四五（六一）〇八一七
FAX〇五四五（六一）〇八二九